

令和5年11月11日 SDGs中学生議会 質問・答弁記録

【第1地区】

<質問・提案>

中学生議員（1人目）

「多様性を認め合おう」学校でこんな言葉を聞きました。しかし、私は「多様性とはなんだろう」と疑問に思いました。周りの友人に回答を求めましたが、じっくりくる回答はありませんでした。

江戸川区には多くの人々がいます。その中には、外国籍の方もいれば、何か障害をもっている方もいて、まちでよく見かけます。そのような方々と過ごしていく中で、多様性について理解することはとても重要だと思います。

そのため、学生のうちから、多様性がどのようなものであって、それらを認め合うことでどのような社会を築き上げていくことが可能であるのかを知っておくべきなのではないでしょうか。

小学校や中学校の授業の一部として、多様性について知ることができる機会をつくっていくのはいかがでしょうか。学生のうちから学ぶことで、私達の目指す社会の実現に近づけると 생각합니다。

中学生議員（2人目）

私は江戸川区で生活していて、防火水槽や避難場所という表示をよく見かけます。

しかし、それらの場所、その使用方法を知らない人が多いのではないのでしょうか。実際に友人に質問してみたところ、ほとんどの人が「災害時の道具の使い方がわからない」と答えしており、中には「表示を知らない」という人もいました。

そこで、私が考えたのは、災害時の道具の設置場所を記したマップをつくるということです。そうすることで、区民の皆さんが日常的に防災に目を向けることができます。

また、区民に向けて、災害時の道具の使い方を教える機会を設けてほしいと思っています。例えば、中学校の訓練で避難場所に行き、道具の使い方を体験しながら学んだり、区のホームページに道具の使用方を記載したりするのはどうでしょうか。

これらの対策をとることで、SDGsの11番「住み続けられるまちづくりを」を達成することができると思います。

ぜひご検討よろしく申し上げます。

中学生議員（3人目）

僕は、江戸川区で暮らしていて、老朽化が進んでいるものや、歩道がでこぼこしていて、つまずきやすいものを見かけます。このままでは、けがをしてしまう危険があるかもしれま

せん。そのような危険を早期になくすためにも、そのようなところを、区民が区役所に簡単に知らせることができるウェブサイトをつくったり、江戸川区の公式 LINE を広めたらどうでしょうか。危険なところを一番知ることができるのは、区民だと思うので、手間なく簡単に区役所に知らせることができる機能があるだけで、江戸川区が一步安全へ近づくのではないのでしょうか。

また、既に危険なところを修理する計画等が進められているものがあったとしても、それは区民からはわからないので、区民は不安になると思います。そこで、修理が計画されていることや、修理の完成時期、または、点検の頻度等の情報をインターネット上だけではなく、区民が目につくところに置いたら、区民も区役所がきちんと進めてくれていると思い、安心すると思います。

SDGs11 番の「住み続けられるまちづくりを」を達成するためにも、危険なもの、また、老朽化しているものを修復し、それらの対応や情報を可視化できるようにして、区民が安全に暮らせるようにするのはいかがでしょうか。

中学生議員（4人目）

私は、お祭りのお手伝いに参加した時、楽しいと感じるとともに、自分も地域のために、また、誰かのためにできることがあると知りました。そのときから、ボランティアに興味を持つようになりました。

ですが、忙しい中、インターネットでボランティアの募集について調べることは難しく、参加したいものがあったとしても、申し込み方法が難しい等の理由で参加できないことがありました。

そこで提案です。まず、江戸川区内全中学校の各クラスに、募集要項を掲示する等して、ボランティアの募集を行い、学校でも申し込みをできるようにすることです。

また、申し込みを簡単にするために、中学生における SDGs アプリ「eito（エイト）」の認知度を上げ、利用者数を増やす対策を取ることを提案します。そうすることで、ボランティアに対してのハードルが下がり、やってみたいと思ったときに参加しやすくなります。

また、子どもの頃からボランティアが習慣になっていれば、自分の住む地域や SDGs に対しての関心・意識が高まり、大人になっても参加する人が今より多くなると思います。

江戸川区をより良くするためになにかしたいと思う人が、年齢関係なく増えるよう、まずは中学生が参加しやすい環境を整えてみてはどうでしょうか。

中学生議員（5人目）

私は中高生が利用できる公園について提案します。

日頃から友人と公園で遊んでいる際に、中高生向けの公園が非常に少ないと感じていま

した。具体的に言えば、遊具の対象年齢が幼児であったり、ボールを使用できる公園がわずかしかないということを実感しました。実際に私が知っている、ボール使用可能な公園は大島小松川公園のみです。

そこで提案があります。1つ目は、新しい公園をゼロからつくるには膨大な費用がかかると思いますので、今ある大きい公園をリニューアルしてはどうか。

2つ目は、たくさんの方への需要に応えるため、バスケットボールやサッカー等、様々な用途に転換できる多目的な公園をつくるのはどうか。

3つ目は公園に使う土地の問題として、よく駐車場に使用されている高架下の土地を見かけますが、そのような土地を公園として活用したらどうか。

4つ目は、大きい公園となると、近隣住民の方への配慮が必要かと思いますが、ボールが外に出ないように仕切りをつくったり、夜間帯には鍵を閉め、進入禁止とする等、管理人を設置して管理を行ってはどうか。以上が私の提案です。

お忙しい中、中学生が江戸川区をより良くするために、発言できる場を設けてくださりありがとうございます。検討をどうぞよろしく申し上げます。

中学生議員（6人目）

私は登下校時、歩きたばこをしている人から煙を吸い込んでしまうことがよくあり、いつも嫌だなと感じています。周りの多くの友達も受動喫煙に迷惑しており、やめてほしいと言っています。そこで調べてみると、他区では、受動喫煙禁止の看板やステッカー等の対策をしていることがわかりました。

江戸川区でも、受動喫煙防止啓発ポスターを掲出したことがあるとのことですが、私は見たことがありませんので、もっと多くの人の目につくようなところに、受動喫煙の影響を示したポスターや看板を掲出ではなく、設置することはできないのでしょうか。

私は「受動喫煙は自分にも、他人にも害があるものだ」ということを啓発すべきではないかと考えます。

また、私が小学生の頃、学校で地域清掃をした時、たばこの吸い殻がたくさん落ちていましたが、今でも変わらずそれが目立ちます。これは江戸川区のまちの景観を損ねてしまっているものであると思います。

受動喫煙防止とあわせて、江戸川区で行われている歩きたばこ、ポイ捨て対策も更に強化すべきではないかと思いますがいかがでしょうか。

中学生議員（7人目）

私は、部活動や塾の帰り道が暗く、街路灯が少ないと感じることがよくあります。電球が切れているのか、薄暗い街路灯を見かけ、冬の夜道は一層不安になります。暗い道について、

以前から対策をしてほしいと思うことがありましたが、どうすればよいのかわかりませんでした。

そこで2点、質問、提案をします。

1点目は、暗い街路灯への対策をしていただけないでしょうか。

2点目は、中学生の要望も気軽に区に届けられるツールをつくってほしいと思うのですが、いかがでしょうか。例えば、そのツールとして区のホームページの中に、意見箱、要望箱をつくることです。

また、それを中学生にも周知してほしいため、学校で手紙等にして配布をしたらどうでしょうか。町会パトロール班や学校の登校班からも気づいたことを意見箱に寄せてもらう等、意見箱を通して江戸川区と中学生の繋がりを深め、活発にコミュニケーションを取れるようにできたらいいと思います。

「住み続けられるまちづくりを」を達成するためにも、私達のような中学生が気軽に声を上げられる安心して暮らせる江戸川区にしてほしいです。

中学生議員（8人目）

はじめに、私のお願いですが、若者が魅力を感じることができるまちづくりを江戸川区にしてほしいです。そのための第一歩として、江戸川区のスポーツ施設から取り組んでほしいです。スポーツ施設は利用する若者も多く、私も友人と頻繁に利用します。

そこで、中学生の私が、こうした方がいいのではと思うことを提案していきます。それは施設を増やしてみてもどうかということです。隣の区である江東区や葛飾区には、江戸川区よりも多くの人工芝があったり、江戸川区にはない、スケートボードができる施設があったりします。

江戸川区にもそのような施設があれば、地元のスポーツクラブや部活動が、今よりも盛んになり、学生の遊び場にもなります。更には、スポーツ選手の育成にも繋がり、江戸川区が更に栄えると思います。

具体的な施設でいうと、スケートボードパークや芝の運動場、野球場があるといいなと思います。ぜひ検討をお願いします。

<答弁>

斉藤区長

それでは、お答えをしてみたいです。

最初に、多様性について学校の授業の一部として扱ってほしいとの質問について、こちら

は教育長からお答えをさせていただきます。

齊藤区長

2点目の災害時の安全と設備の利用方法についてです。区では江戸川区全域の防災マップですね。あと地区ごとに、これ6つの地区なんですけれども、分割した防災マップを作成しておりますけれども、内容の更新と充実を図って、今新しいマップを作成していきたいというふうに考えています。

その中で、ご提案の内容、災害時の道具の設置場所等ですね、そういったものを反映をしていきたいと思っておりますけれども、今の紙の形でしていくのか、今防災アプリがございますけれども、どんどん更新をされていきますとやっぱり紙よりもアプリの方がいいという考え方もありますので、そういったところも含めて検討しているところでございます。

そしてですね、区では地域の防災訓練等の際に、災害時の設備についてご説明を行っています。区のホームページ、ここでは公園にどのような設備があるかということも掲載しているところです。

今後は公園の看板に、災害時の設備を表示することに加えて、今、二次元コードがあると思うんですけれども、公園の看板に二次元コードを入れて、それで動画を見ていただくと使い方が分かるような、そういったものもこれから考えていければというふうに思っております。

中学生の皆様も貴重な地域の防災の担い手だとも考えておりますので、これから様々な面で、私どもの、ぜひ相談に乗っていただいて、ご助言をいただけないかなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

齊藤区長

続きまして、施設の老朽化についてです。

道路等の安全性を日々確認することは大変重要なことだというふうに思っております。江戸川区は道路や橋、地下に駐輪場なんかもありますけれども、こういった施設、常に良好な状態を保つように計画的な維持管理に努めています。壊れたら直すのではなくて、未然にそれを防止するために、計画的に修繕をしていくということです。それが、この故障っていうんですかね。穴が開いちゃったりとかそういうことを防ぎますし、また施設を長く使えるようにもなってきます。

日々のパトロールや点検で速やかに発見するように努めておりますけれども、私どもの目も限られています。そういった点からはですね、皆さんから情報をいただくことは大変ありがたいことだというふうに思っております。

今の LINE のアカウントですね、江戸川区の。ここで道路の損傷を投稿することができるようになっています。道路のでこぼこ、街路灯が例えばついていないとか、道路全般の不具合を投稿できますので、ご活用いただければなというふうに思っております。

ただ、まだまだ見づらいつらいつらいというところもあると思いますので、そういったところは私達も改善すべきところはしていければというふうに思っています。

これからもですね、日々の管理をしっかりやって、事故がないように、そして長く続けられるように努めていきたいと思っております。

そこに至る様々な面で、またいろんなご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

齊藤区長

続きまして、ボランティアについてのご質問をいただきました。ありがとうございます。

江戸川区では、みんなが理解し合って共に生活をしていくために「ともに生きるまち」を目指しています。皆さんから様々なご協力いただけてますけれども、ボランティアも大きな大きな力の一つです。

例えば、まちを綺麗にしたいというのも、その一つかと思うんですけども、一人から始めた活動がどんどんどんどん広がってくる、多くの方に、伝染って言い方がいいのかな、広がっていくこともございます。やっぱり一人の行動が人の心を動かして、それが多くの方の共感を生むということがある。それがボランティアの一つの効果でもあるというふうに思っております。

今の、例えば夏のボランティアの体験、区民まつり、地域まつり「自転車盗ゼロ作戦」とか、様々な形で中学生の皆さんのお力を借りています。その数約3000名に今なっています。こういったものは学校を通じて募集をしているものですから、なかなかわかりづらい。応募しづらいということがあるのかもしれませんが。やはりですね、もっと簡単に申し込むことができればいいというのは、私自身感じているところです。

その一つがですね、ご提案をいただきましたSDGsの「eito(エイト)」というアプリですけども、それをこれからどんどん活用していきたいというふうに思っていますので、その中で、見やすく、何を今募集してるのかがわかるようになって、そして応募もしやすくなるような、そういった改善はこれからやっていきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

何よりも多くの中学生の皆さんがですね、ボランティアに興味を持っていただいて、参加できるような環境をこれからはしっかりつくっていききたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

齊藤区長

続きまして、公園についてですね。

大きい公園のリニューアルをしたらどうかということでございます。江戸川区の公園、かなり年数がたっているものがありまして、どんどん更新をかけています。リニューアルですね。そういった中で例えば公園の中にある遊具だとか、様々な施設がありますけれども、そういったものをどんどん今の時代に合ったものに変えていっております。

ただ、大きな公園の中で、バスケットボールやサッカーというようなお話がございました。確かにボールが使える公園っていうのは江戸川区少ないです。それおっしゃる通りなんです。できれば、私自身もすべての公園でボールが使えるようにしたいんですけども、一方ではやっぱり公園に接して住んでる方達からはですね「ボールの音がうるさい」というような、お叱りを結構いただくことがあります。そうするとやはりボールが使える公園っていうのは限られてきているというのが現状になっています。ただですね、ご提案をいただきました、高架の土地、高架の下ですね。例えば鉄道とか高速道路の下は道路が通ってますから、騒音というのも少なくなります。

今ですね、江戸川区内に、J Rと環七と首都高の高架下に公園が22個あります。フェンスで囲まれていて、その中でバスケットボールとかができるようになってるところもあります。ご提案の通り、フェンスがあって、鍵をかけて使ってもらおうというような公園もあるんですけども、なかなか数にやっぱり限りがあるということと、残念なんですけど鍵をかけても、それを乗り越えて使ってしまうと、周りの方が迷惑をしてしまうというようなこともあります。私達の管理の問題なのかもしれないんですけども、どちらにしてもですね、色々な方が利用できる公園というのを私達目指していますので、今日いただいた提案をしっかり受けとめて、これから考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

齊藤区長

続きまして、たばこの受動喫煙とポイ捨ての件ですね。

これはもうおっしゃる通りで、受動喫煙を防いでいかなければならないと思っていますし、ポイ捨ても減らしていきたい。できればゼロにしたいと思っています。

先ほど、ポスターを見たことないと言われて、ちょっと反省しなきゃいけないなんて思ったんですけど、今月からですね、ポスターを実はつくって、今、部長が持ってますけれども、こういったポスターですね「私達は困っています」というようなことで、たばこについて注意喚起をするポスターをつくりました。

例えば「ごみのポイ捨ては法律違反です」というようなところも書いてあります。これは4000枚つくりまして貼り出したところなんで、これからのちょっと成果を見ていた

だけないかなというふうに思っています。

またですね、もう一つ看板や、道路に貼るようなシートですね。これもこういうような形で、今、色々なところにつけているところがございます。

それ合わせると2000枚ぐらい今区内で貼ってるんですけども、こういったものも、まだ減らないということは、まだ足りないのかなっていうような、そういうふうにも感じますけれども私達も頑張っていきます。

やっぱり、皆さんにも目につくような形をしていかないと、というふうには思っております。現状こういうふうにやってるということです。

これからなんですけれども、高校生や大学生、或いは地元の企業の皆さんにも参加をしていただく様々な運動、これはSNSも活用していきたいというふうに思っております。

また、区の施設に先ほどのような注意喚起をしっかりとやっていく、或いはたばこを販売しているお店とも協力して、例えば、ウェットティッシュを渡して、そこにしっかりと注意喚起をするような、そういった取り組み等もやっていきたいというふうに思っています。

ご提案の通り、受動喫煙、吸い殻のポイ捨て、減らしていく努力をしっかりとやっていきますのでよろしくお願ひします。

齊藤区長

続きまして、住宅街の街路灯についてです。

住宅街の街路灯なんですけれども、街路灯のまず数をお伝えするとですね、江戸川区、私達が管理している区道、江戸川区の道路、区道、3万4000基の街路灯を設置しています。

まず明るさについてなんですけど、3万4000基を通常の蛍光灯からLEDに切り換えがほとんど終わりました。

何を基準にしてるかということなんですけれども。照度基準というのがありまして、例えば「4メートル先の人の顔の向きや動き姿勢等が見分けられる明るさ」これ3ルクスなんですけれども、この3ルクス以上を心がけて、この街路灯の明るさを決めているところがございます。これだとまだちょっと暗いというようなことがありました。もしかしたらの街路灯の間隔が空いていて暗いのか、もしかしたら故障していて暗いのかということもありますので、そういったところもしっかりお伺いをしていければというふうに思っております。

維持管理は、そういったわけで我々「青パト」って呼んでるんですけども、青色の回転灯をつけた車が毎晩夜間パトロールやってるんですけど、そこでパトロール、いろんなことを見ながら、街路灯が切れてるかどうかというのも見っております。そして、何か不具合があればすぐに対応を行っているつもりでございます。

先ほどちょっと触れましたけれども、区の公式のLINEアカウントのメニューで「損

傷を投稿」というところもありますので、こういったものも活用いただければと思っております。

またこれ難しいんですがあんまり明る過ぎますと生態系に、生き物に影響あるというような話もございまして。やはり適度な明るさというところを、これからも求めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

暗いと犯罪なんか誘発することもあると思いますので、しっかりやっていきたいと思っています。

また、中学生の要望を気軽に区に届けられるツールを作ってほしいというご質問もいただきました。

今、多分色々なものが伝わりづらいというか、伝えづらい環境にあるんだと思っています。今、区役所はですね、区長への手紙っていうのがありまして、そこで、今毎月100件から200件ぐらいいろんなことを、メールだったり、紙だったりでいただいているんですけども、それは区長に申し入れたいというようなところでもありますので、区政に対する提案というところは確かにはっきりしてない部分がありますので、ここはですねこれからリニューアルをホームページもかけていきます。

その時にですね、ご提案いただいた区政への提案というところをつくって、わかりやすく掲示をしていければというふうに思っておりますのでよろしくお願いします。

齊藤区長

続きまして、スポーツ施設を増やしてほしいということで、まだまだ江戸川区、足りない部分があるかもしれません。

今、江戸川区で持っているスポーツ施設、年間で使っている方、318万9000人なんですけど、これは我々が数えられる範囲ということで、実際もっと多いだろうと思っています。ただ、ご提案のようにですね、もっと場所があればいいなというところは私も感じています。

スケートボードパークのお話がございました。今、水辺のスポーツガーデンという江戸川沿いのところでは、できるようになってるんですけども、ただ、まだ数が足りませんし、その難易度っていうのは、そんなに難しいものが置いてあるわけではありません。そうするとですね、やはり本格的にスケートボードができる場所があった方がいいんじゃないかということがお話としてあると思います。

スケートボードパークあるといいなと私も思います。あとはですね、地域の皆さんにご理解をいただけるかどうかということが大きな鍵でございまして、つくってほしいという声があるんですけども、自分の家の隣とか自分の近くにはつくってほしくないという方が多いです。総論としては皆さん賛成なんですけど、自分の家の隣にできるのは困りますというようなことが多くてなかなか進められないのが現状です。

ですので、これは私達がもっと、江戸川区として発信をしていかなきゃいけないのかなというふうにも思いますし、スケートボードをやりたい人がじゃあどうすればいいんだと、江東区まで行かなきゃいけないのかということにもなってくると思いますので、そこは地域の皆さんの声を聞きながら進めていければなというふうに思っています。

どちらにしても江戸川区ですね。スポーツ環境というのは充実をさせていきたいと思っています。そして、何歳になってもスポーツができる環境整備というのを、これからも江戸川区続けていきますので、今日のようなご意見、ぜひこれからもいただければと思っていますのでよろしくをお願いします。

蓮沼教育長

それでは私の方から、多様性について学校の授業の一部として扱ってほしいとの質問にお答えいたします。

まずは、高い意識に基づく質問・要望ありがとうございます。

学校におきましては、高齢者や障害のある方、外国籍の方、性的少数者の方等の人権について、社会科や道徳、保健体育等の授業で学ぶ場面がありますが、残念ながら取り上げる時間はそう多くはありません。

実は、先週行われました、中学生弁論大会。文化センターで行われましたけども、この多様性をテーマにして意見表明をしてくれた代表の生徒がいました。

LGBTについて語ってくれたわけですが、この問題を自分事として受けとめ、真剣に考えている中学生がいること、私も話を聞かせていただき大変嬉しくも感じました。

しかし、残念ながら、性の多様性への理解不足から冷やかしを受けたり、いじめや差別の対象になる等、学校をはじめ社会生活の様々な場面で不利益を受けている人がいるのも現実でございます。

こうしたことは、まさに人権問題であり、共生社会を目指す江戸川区の方針とは、真逆になります。ですので、詩人である金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」との詩のように、障害のある方、外国籍の方、高齢者の方、LGBT等の方々を含め、この多様性を尊重することが大変重要であり、先生方も研修等を通して理解を深めているところです。

中学校では、小学校もそうですけれどもこれからも様々な機会を通して、皆さん一人ひとりが自分と異なる人や、その人の考え方、生き方について尊重し、大切にしようとする気持ちを持つことができる学びの場を多くつくれるよう、学校にも働きかけるよう教育委員会としても引き続き頑張ってまいります。